

議会報告会・意見交換会記録

1 日 時 令和4年5月17日(火) 午後7時00分 開会

2 場 所 新井総合コミュニティセンター2階大会議室

3 出席議員 10名

議 長	佐藤 栄一	広報広聴委員	八木 清美
広報広聴委員長	宮澤 一照	〃	横尾 祐子
広報広聴副委員長	宮崎 淳一	総務委員長	岩崎 芳昭
広報広聴委員	天野 京子	厚生文教委員長	村越 洋一
〃	太田 紀己代	産業経済委員長	阿部 幸夫

4 市民出席者 5名

5 事務局員 2名

局 長	阿部 光洋	主 査	道下 啓子
-----	-------	-----	-------

6 件 名

議会報告会・意見交換会

- 1) 開会
- 2) あいさつ 議会報告
- 3) 意見交換 「街なかの活性化について」「地域コミュニティについて」
- 4) 閉会あいさつ
- 5) 閉会

1) 開 会

○司会（太田紀己代） 皆様、本日はお忙しい中お集まりいただきまして、誠にありがとうございます。もう少しお集まりいただいて、18名、20名と期待しておりましたが、しかしながら、議会報告会意見交換会をきちっと始めさせていただきたいというふうに思います。お手元にアンケートとレジメをお渡ししているかと思いますが、お帰りの際に、アンケートのご記入と私どもにお渡しいただければというふうに考えております。なおこの、議会報告会意見交換会の議事録を作成予定しておりますので、ご参加いただいております皆様の個人名等の公開はございませんが、次の意見交換における皆様のご意見や、或いは議員の発言につきまして、会議録としてホームページに公開させていただきたいというふうに考えておりますので、どうぞよろしくお願いを申し上げます。それではですね、私、名乗りませんでした。広報広聴委員の太田紀己代と申します。今回進行役を務めさせていただきます。どうぞよろしくお願いをいたします。

まずは、開催前に担当の議員から自己紹介をさせていただき、そのあと、議会報告、意見交換会に入らせていただきます。それでは、佐藤議長のほうから自己紹介をお願いいたします。

○議長（佐藤栄一） 皆さんこんばんは。議長の佐藤でございます。よろしくお願いいたします。

○総務委員長（岩崎芳昭） ご苦労様です。総務委員長の岩崎芳昭と申します。よろしくお願いいたします。

○厚生文教委員長（村越洋一） ごめんください。厚生文教委員会委員長の村越洋一でございます。どうぞよろしくお願いをいたします。

○産業経済委員長（阿部幸夫） ご苦労さまです。産業経済委員会の阿部と申します。どうかよろしくお願ひいたします。

2) あいさつ 議会報告

○司会（太田紀己代） それではただいまから妙高市議会報告会意見懇談会を開催いたします。初めに、佐藤議長よりご挨拶、議会報告をいたします。

○議長（佐藤栄一） 本日はお忙しい中、議会報告会意見交換会にご出席いただきありがとうございます。日頃より、当委員会の活動に対し、ご理解とご協力をいただき、心より御礼申し上げます。さて私から本日開催の議会報告会意見交換会の趣旨と目的を説明させていただきます。この企画は、市民の皆さんに議会の取り組みを知っていただくとともに、市民の皆さんと情報共有、意見交換の機会を設けています。いただいた意見を市長執行機関に伝えるだけでなく、中身を十分精査し、議会の活動につなげてまいります。また、市民の皆様方の負託に答えるべく安心安全な妙高市づくりに取り組んで参ります。議会としましては、まちづくりの政策決定過程の市民参加が、これからの妙高市の発展に重要になってくると思っております。最良の妙高市に導くため、皆様のご意見を議会としての政策提言に役立てていく所存であります。ぜひ、忌憚のないご意見をお聞かせいただければ幸いです。

それでは、3月定例会で審議しました令和4年度一般会計予算について簡単に説明させていただきます。誰1人取り残さないというSDGsの理念のもと、第3次妙高市総合計画に掲げる重点プロジェクト、戦略目標のほか、令和4年度行政経営方針を踏まえ、市民生活の根幹を支える安全安心の分野を着実に進めていくとともに、新型コロナウイルス感染症拡大による難局を乗り越え、SDGs未来都市の推進や脱炭素社会に向けた実践の輪を拡大していくことで、全ての市民と地球を笑顔にする生命地域妙高を実現していくための予算として編成されました。予算規模は202億2000万円で、前年度比10.9%、予算額で19億9000万円の増となっております。さらに、先日、5月11日の臨時会において、みんなの応援券・商品券を発行する費用として、6億6500万円を計上した一般会計補正予算案が提案され、可決いたしました。応援券は2種類ありまして、1つは、全ての市民が1冊1万円分を5000円で購入できます。使用するときの取扱店のうち、1万円分の半分は市内に本店がある店舗で、もう半分は商工会議所や商工会の会員でこの事業への参加を希望する店舗で使用可能です。6月下旬頃、郵送されてくる引換券を提示し、購入することとなります。応援券のもう1種類は市内の中学3年生以下と75歳以上のかたにそれぞれ、ひとり1冊1万円分を配付し、取扱店は、市内に本店がある店舗で使用可能です。いずれも7月から9月末まで利用できる商品券となっております。

続きまして、議会だよりをご覧ください。広報広聴委員会のメンバーでアイデアを出し合い、作り上げられました。2ページから4ページは、予算総括質疑を掲載しております。5ページから7ページでは、3常任委員会での議案審査を掲載しております。8ページからは、各議員の一般質問が掲載されています。各議員の写真とタイトルの下に、QRコードが付けてありますが、そこから入っていただくと、YouTubeに繋がり、各議員の質問が見られますので、後ほどゆっくりご覧ください。最終ページ、真ん中あたりには、SDGs未来都市オリジナルロゴマークが掲載されています。妙高市SDGs未来都市とは、まちづくりの基本理念を市民と共有しながら、誰一人取り残さないというSDGsの考えを取り入れ、妙高市の強みである自然、環境を守りながら、経済、社会の好循環を生み出す取り組みを加速させることにより、人と自然が共生する持続可能なまち生命地域妙高の実現を目指すものであります。そのオリジナルロゴマークが決定され、すべてはその手からSDGsの17の目標と妙高市が目指す人と自然が共生する持続可能なまちづくりは、すべて一人ひとりの手から始まるという意味が込められているとのことです。すべてはその手からの後に思い思いの言葉をつけることで、持続可能な未来へ向けたまちづくりへ

の考えを表現できます。

この議会報告会・意見交換会は、皆様方の、前向きなご意見、アイデア等を聞かせて頂き、これからの妙高市の発展に繋げて参りますので、よろしくお願いいたします。簡単ですが、以上であいさつ、並びに議会報告とさせていただきます。本日はどうぞよろしくお願いいたします。

3) 意見交換「人口減少対策について」

○司会（太田紀己代） 佐藤議長どうもありがとうございました。それでは、これから皆様方からいろいろと日頃思っておられることを考えておられること。お伺いできればというふうに思います。今回、2つのテーマをレジメの方に上げさせていただいてございます。一応そのテーマを出して、この会を進めさせていただきたいと思います。最初に、街なかの活性化について、皆様の方からご意見がございましたらどうぞ、挙手の上でご発言をいただければというふうに思います。またそのときに、地区名とお名前を述べていただければというふうに考えておりますので、よろしくお願いいたします。どうぞよろしくお願いいたします。

○市民A 座ったままで失礼します。〇〇に店舗を持っております〇〇の〇〇と申します。イベントっていうことに対して、皆さんのお考えはどういうふうに思っているのか、要するに、今、コロナ禍でイベントがほとんど行われておりません。ますます街が寂れていくような感じを受けております。イベントについて、議員の皆様はどういうふうに思っているのでしょうか。それをお聞きしたいと思います。

○司会（太田紀己代） ありがとうございます。まずは総務委員長の方から順に答え…。

〔「産業経済から」と呼ぶ者あり〕

○司会（太田紀己代） 大変失礼いたしました。産業経済の委員長から順に答えていただければと思います。

○産業経済委員長（阿部幸夫） ご質問ありがとうございます。それでは産業経済委員会として、これまでの中身と考え方についてお話をさせていただきます。今まで質問の中にありましたように、コロナ禍ということで、そういった状況の中では、全国的になかなか行事を開催するということには難しいところでもあります。ここに来まして、やっとなんとかコロナ禍に対するいろんな環境対策等々が整ってきましたので、これからは、積極的にコロナ禍の対策を行い、私どもとしては活発な活動をしていきたいというふうに思います。特に蜜ということについては、そして街なかにおいてそれなりのルールというものをしっかりとですね、守った中で、皆さんに参加をいただきたい。ただ一つ私が常に思うことは、いろんな行事をやってもですね、なかなか今少子化、そして高齢化ということで、参加者人数等々が思ったような形になってないということもありますので、なるべくお互いに声をかけあって、そして妙高市を、街なかをできれば、活性化して盛り上げていただければ、こんな考え方を持っておりますので、よろしくお願いいたします。ただ一つ申し上げますが、街なかを何とかしたいということですね、私ども、スーパー等々をですね、何とかして欲しいという要望がありましたので、サンライズの後ですね、日本海という業者からご協力いただいて、スーパー的な対応とも取ってきているということでもありますし、そういった面も一つのにぎわい、または行事の一つというふうにご理解いただければと思います。以上です。

○司会（太田紀己代） その他の委員長でお答えしたいことがございましたら、引き続き答えてもらって、お戻しいと思います。

○厚生文教委員長（村越洋一） 村越でございます。今日時間もたくさんあるんで、意見交換ということでざっくりばらんにいろんな意見を言うていただけるような感じがよろしいかなと思いますので、気軽な発言ということで、お聞きいただきたいと思います。今ほど質問あったイベントですね、イベントとして、現在コロナ禍というところでどういうふう運営していくか、そして、これからどんなふう継続していくかっていうところが一番大事かなとい

うふうに思っています。ご存知の通りですね、コロナ禍といってもコロナが終息して、アフターコロナというよりは、もうウィズコロナでいろんな形を進めていかなくちゃいけないという思いがあります。例えばですけれども、人数制限、それからソーシャルディスタンスをやりながら、コロナ禍だからこそこできることとか、そういったことも見つけながらやるべきかなというふうに思います。ちょっと時間もあるんで、私のことをお話をさせていただきますと、実はこの間COCOAアプリ皆さん、スマホの中にインストールされてるかなというふうに思うんですけれども、それでちょっと通知が来まして、陽性者のかたと接触してたというふうな通知が来たんですね。その中で、本当にどうやって生活しながら、社会生活するか、社会生活っていうか、何かそれ溶け込みながらやってるかっていうと非常にこう考えました。イベントについても同じことで、コロナのかたの中にはもしかしたらいるかもしれないすから、いつ頃にコロナにかかるかわからないという状況の中で、やっていくことがまずは第一歩として大事じゃないかなというふうに思います。そういう意味ではいろんなかたがですね、正常な通常の生活をやられてると思いますので、少しずつですね、様子を見ながら、始めていくというのが一番いいんじゃないかなというふうに思っております。一番大事なのは、持続可能な形で進められていけるように、何でも頼るといことじゃなくてですね、自分たちで生み出しながら、輪を広めながらっていうところがイベントについても大事じゃないかなというふうに思っています。

○司会（太田紀己代） ありがとうございます。次は、岩崎総務委員長お願いいたします。

○総務委員長（岩崎芳昭） 所管はちょっと違うんですけども、私なりの考え方とすれば今までのイベントのやり方を、やっぱりこのコロナ禍っていうものを境に、見直しが必要かなと思っています。私の地元姫川原では、先般、地元のアんちゃ会って、若い人達を中心にして、なかなかその2年間いろんな行事ができない。その中で、いかにそういう人たちが集まって、たまには会費持ち合いでいっぱい飲めるような場をどうやったら運営できるのかな。そんな企画もやったりしながらですねやっているんですが、これを機にある程度、今のイベントってものを少子化または高齢化を踏まえながら、もうちょっと誰にでもできるような形で見直していくいい機会だなと、そういうふうにも思いますので、皆さんで知恵出し合いながら、またこれから街なかの活性化に向けたいろいろな取り組み、どれがいいのか、また自分たちは何ができるのか、そこら辺をですね、考えるが一つの方法かなというふうに思っています。

○司会（太田紀己代） ○○様、今のお話についていかがでございましょうか。

○市民A 大変ご意見ありがとうございます。ただですね、もっと今、野球場もそうですし、だんだんと人数を増やしていますよね、観客を。相撲もそうですし、今までコロナ禍で、どんどんどんどん減らされていた、無観客だったのが、観客を入れるようになるし、それがだんだん増えてきていますよね。観客が増えるっていうことはそれだけ蜜になるということなんですけども、そういうことがある中で、今、妙高市においては、新井まつりも中止のような考えを持っているし、そういうことがなんて言えいいんでしょうかね。イベントとして、ちゃんとできるような状況を考えてもらいたいというふうに思います。やはり、新井まつりみたいなことをやれば、するだけ街なかの活性化してきますし、それだけ潤いというか、心の潤いができるんじゃないかなというふうには思っております。ですから、何て言えいいのかな。それだけ人が騒げるような事を、もうちょっと市でも考えてもらえないかなというふうに思います。

○司会（太田紀己代） ○○様、どうもありがとうございます。非常に深いお話をいただいたかと思っております。これもまた3常任委員長だけでなく、ここにいる議員、そしてまた、この話を大きく広げて、しっかりとこの地域の活性化について、やっていきたいというふうに思っています。その他のかたで街なかの活性化についてご意見ございますでしょうか。

○市民B 妙高高原の〇〇の〇〇と申します。議員の皆さんにお聞きしたいんですけど、前回、妙高高原で、人口4,000人の意見交換会をやりました。4,000人に対して10人集まりました。新井地域では2万人いて、私たちは妙高高原です。新井からは3人しか来ていません。これどう思いますか。広報しました。来ませんでした。しょうがないじゃないか。そんなもんじゃ駄目だと思います。議長から順次、これはですね、誰とは言いません。全員…やりました。それでは駄目なんです。こんなでは議会に期待できませんと。だから今日も、諦めてないから妙高高原から、往復1時間かけて来たんです。だから、ますます人口が減ってくるのに、議会の人に頑張ってもらわないと困ると思うんですよね。で、悪循環で、どんどんどんどん悪くなっていきます。愚痴というかあれなんですけどね。私は今日傍聴人ということえ、黙ってようと思ったけど、これじゃあ…議員さん10人いて、こっち5人、これ意見交換会ですか、ただの報告会ですよね。まあということです。

○司会(太田紀己代) 非常に熱い議会に対する思いをいただいたように感じます。本当に私どものまたこれからの努力を、非常に必要なところというふうに感じております。ありがとうございました。はい。どうぞ。

○市民C 今のご意見なんですけども、私も来まして、確かにこれだけ少ないとびっくりしてね。それだけ市民の意識がやっぱり低いんですよね。それと、市民の意識低いのもですね、このやり方ですかね、私もよく出席してないからわからないけども、皆さんがたが市民から意見を聞くのであれば、すでにやるかもしれませんが、皆さんがたの方で、例えば町内会の、会議がありますよね。そこに出向いて、意見を聞くとか、そういうことをした方が集まるんじゃないかなっていう気はしますけど。その辺はどうなんだろうかね。やってることはやっているでいいんですよ。私はただそういうふうに思っただけですけどね。皆さんの方で懐に入ってくるということで、ただこうやって形でやると堅苦しくて、意見も言いたくても緊張しちゃって言えないことがあるから、その方がいいんじゃないかなと思うんですけど。それとまだいいですか。今〇〇さんの方で活性化ですよ。街なかの活性化。これは確か、コロナ禍での皆様方との意見交換会が何年前にありましたけども、その時もこの議題でしたよね。だからこの街なかの活性化って非常に難しいと思います。これはうちらだけじゃなくて、隣の上越市でも市長さんが直江津に商店街はないとか言って、いろいろこう新聞に叩かれましたけども、これってのはやっぱり私も、前回も確かこの街なかってのは協議したと思うんですよ。あの時も私も意見出させてもらって、皆さん方、議会の方が、いろんなところへ、全国いろんな行脚して、いろんなところの地域の活性化ってのを勉強してると思うんで、そういう事例があったら教えてくださいというふうに私たち質問したと思うんですけど。あえてそんな特別のね、案ってなかったと思うんですよ。だから、これはこの妙高市だけじゃなくて、この日本全国でどこも問題は抱えていると思うんですよ。抱えていて、なかなか解決案がないと思うんですよ。あるとすれば真似しますからね。だから私は、活性化という言葉自体ですね、私たちも、必要ですけども、あんまりこれにこだわることはないんじゃないか、私は逆に思うんですよ。もちろんだっけね。子どもいないし、少子化だし、高齢化だし、そんな中で私も70年ぐらい生きてきてますけども、高度成長の頃と比べれば、今まさにもう、どんどんと人が減ってて、当然もう妙高市だってもう上越市と将来ですね、何十年先には合併することになるんだから、こういう街なかの活性化ってということ自体がですね私もう死語になっていくんじゃないかなと。別に〇〇さんの意見の活性化については反対するわけじゃなくて、この活性化って言葉自体がもう、果たして今の時代に合うのかなというふうに思ってるんですよ。というのは、もちろん高速化で、ちょっとお金出して、お金ある人はですね。銀座行ってコーヒー飲んで帰って来ることが出来ますよね。そうするとじゃあ高級な気分になってですね、そういう休日を過ごしたいかっていうと、妙高市ではそういうところないですよ。高級ホテルのロッテ行けば、違うかもしれませんが、そういう意味での活性化ってのは難しい問題だなと思うんですよ。そうは言っても何も言わないわけじゃないんで、イベントですよ。確かに、コロナ禍で何もできなかったんですけども、例えば、今、新しく野球場ですか、総合公園ですか、

新しくできますよね。それから、道の駅もあるし、もちろん図書館もできますけれども、そういうところで何かイベント開いたときにですね、一つの簡単な例として、今の妙高高原町出身のヒカキンさんいますよね。ユーチューバーのあのかたをですね、私は利用した方がいいと思うんですね。あのかたも地元に対して、郷土愛があると思うんですね。あういうかたに、例えばイベント開いたときにですね、ユーチューバーに来てもらって、ちょっとね、盛り立ててもらおうとか、或いはヒカキンさんに、人員を少し召集してもらおうような、そういう方法もこれも一つの事例ですけども、そういうやり方もあってもいいのかなと私思います。以上です。

○司会（太田紀己代） ありがとうございます。今ほどお二方から、この意見交換会のありかた、議会側の状況といったところのご意見をいただきました。改めまして、それに対して、こちらの方から少し意見を述べさせていただければというふうに思います。こちらについては、広報広聴委員長よろしく願いいたします。

○広報広聴委員長（宮澤一照） 広報広聴委員長の宮澤でございます。先ほどのですね、ご質問いただいたんですけども、今回ですね、本当に人数が集まらなかった。これはですね、すべて私の本当に責任でございます。私がもう少しですね、ちゃんと委員会をまとめて、それでももう少し周知をしっかりとやれば、まだ、こちらの新井地区なんですけれども、集まったんじゃないかなと思います。ただ一つ私は、動員するなら議員の中から、みんな後援会の人もそうですし、いろんな人を3人ずつ集めて、それでやればそれ人数は集まるけれども、本当の自治体はどうか、人数がどれぐらい集まってもらえるのかっていうことも、正直、私、期待してたところもあります。妙高高原町の場合も、やはり女将の会の話があって、それで集まったんですけども、やはりどれだけの人数の方が集まってくれるのかっていうこと、どうなの興味あんのかなっていうことを、1回学んでそれからもう1回議会活動として、我々でやっていければっていうちょっと私自身の気持ちがあった。その中でやっぱり本当に、この新井地区で、広報、この議会報にしてもそうですし、有線にしてもそうですし、いろんなプレスの仕方もしたんですけども、結果的にはこういう形になったっていうことは、非常に責任を感じているところでございます。本当に申し訳ございませんでした。今後ですね、でもこれを土台にどうやって集まっていくかということを今一度議論させていただいて、それで、何とかですねもう一度トライして、現役中にですねトライしていければというふうに考えております。私が今、人数の件についての質問に対しては、私の方からしか言えませんが街なかの活性化それからイベントのことっていうのは、今委員長の方に任しておりますんで、私からは、自分の考え方しか言えませんが、それは控えさせていただきたいと思っておりますけれども、本当に今回のですね人数が集まらなかったことを大変申し訳なく思っております。でも、これからもう一度ですね、考えてどうやってみんなに興味持ってもらえるのかっていうことをですね、今の意見をしっかりと、私たちでもう1回議論して、それでやりたいというふうに考えておりますのでよろしくお願いいたします。

○司会（太田紀己代） それでは、今一度、街なかの活性化といったところにつきまして、阿部産業経済委員長からお願いいたします。

○産業経済委員長（阿部幸夫） それでは私の方からですね、これまで行政といろいろですね、どのような形で、妙高市を明るく楽しく、そして皆さんが、元気よくですね、生活できる妙高市にしていくかというようなことを今まで皆さんも経過の中では一番ですね、賑わったなと思うのは、これはどこまで、正直に妙高市ができてきたかというのがあったんですけど、やはり妙高市が変わったなと思ったのは、一つはやっぱり道の駅ができたというのも一つ大きなことだったと思います。二つ目は、私たちの流れよりも、海外からですね、インバウンドの皆さんが、世界からいろんな形で日本に入り、そしてこの妙高市の雪を一つのメインとしてですね。入っておられました。そして私どもとしては、その中でも厳しいいろんな状況があったわけではありますが、JRが民営化してですね、トキ鉄というような形で変わりました。これもまあ新しい雪月花というですね、イメージの中でも一つの行事でですね、

いろいろ盛り上げてきたところであります。継続してどうしていくのかというのはもう率直に言いまして、これコロナ禍がなければ、どうだったかなあというのはあるわけですが、一番私どもが期待するところは、やはり、この後ですね、この今の問題いろいろありますけれど、いかに日本の状況の中で、インバウンドの皆さんが日本に来ていただけるか、日本の文化、そして、日本の景観、さらには人間性、そういったいろんな意味を交流しながら、私どもも大きくは世界の皆さんと交流ができればと、こんな形で思っているところであります。いずれにしてもですね、いろんな夢があるわけですが、私どもも一番大事なことは、これは世界からもそうですし、日本の皆さん、国の皆さんからもそうですし、街なかの皆さんからもそうですが、やはりそういう行事イベント、そして、景観を含めて、皆さんから選んでもらわないと、それをやはりさらに磨いてもらわないとですね。いろんなことをやっても、1人の人はよかったと言ってもですね、みんなには通じないということがあるわけでありまして。皆さんから一つ一つ選んでもらい、参加をしてもらって、そしてさらにはどうやったらもっと良くなる。という今日みたいなご意見をですね、どんどん出していただく。そういう中で、それぞれ私たちの役割というものをですね、先頭に立って旗振っていきたくてこんなふうと考えてるところです。どこの市町村でもそうでありまして、この後もうすぐ県知事選の投票もありますけれども、いかに選んでもらえるか。国民の皆さん、市民の皆さんから、そういった目線で、参加をし、支援をしていただくことを産業経済委員長として望んでおります。さらにはですね、プレミアム商品券、何とか皆さんからですね、懐にあるもの、畳の下にあるもの、金庫の中にあるもの、または銀行に今金利も少ないですから動きませんが、そういったですね。財布の中に、少し元気を出してですね、使っていただいて、その流れを作っていただく、そういったことも大事なことかというふうに思いますし、新幹線も通っているわけです。昔から見たら高速道路も走っているわけです。近くに高谷池ヒュッテが充実しました。日本海もあります。どうやって選んで、どうやって参加していただくか。皆さんにも内容について、ご検討いただくように積極的な取り組みを、私の方からも参画してお願いできればというようなことお願いをしてですね。私の考えとさせていただきます。どうかよろしく願いいたします。

○司会（太田紀己代） 阿部委員長、活性化についての捉え方、あとヒカキンについてもちょっとご意見をいただいておりますのでお願いいたします。

○産業経済委員長（阿部幸夫） 活性化、これはやっぱり、時の流れというものがあるわけでありまして、それ時々いろんな状況が変化していくわけでありまして。これもやっぱりさっきも言った通りですが、どうやって活性化するかにおいてはですね、いろんなアイデアを出すんですけど、出ても、皆さんから受け入れてもらえないとですね。なかなか活性化につながっていかない部分もありますし、いろんな箱物をつくってもですね、使ってもらわなくちゃ、さらには、そこへ、肝を入れていただければ、なかなかいろんな面においてもですね、変化、活性化には繋がらないというふうに思います。いずれにしましても、同じようなことを繰り返しますが、同じことを繰り返される、新たな流れの、チャレンジをお互いしていくということが、その流れを作っていくことではないかというふうに思っておりますので、よろしく願いいたします。言葉足らずのところはまたご意見をいただければというふうに思います。よろしく願いいたします。

○司会（太田紀己代） ヒカキンさんについてはいかがですか。

○産業経済委員長（阿部幸夫） 何をですか、わからない。ごめんなさい。

○司会（太田紀己代） ユーチューバーのヒカキンさん。

○産業経済委員長（阿部幸夫） すいません。ユーチューバーのかたでした。ぜひともですね、そういうことが地域にそういう方々がおられると思いますし、また私も知っておりますけれど、いろんな行事等々ですね、歌手のかたもいれば、いろんな、そういった技能を持っておられるかた、趣味を持っておられるかた、特技を持っているかた、

そういった形については、いろいろまた教えていただきながら、それも皆さんのご協力をいただいて、そういった企画をしていきたいというふうに思いますので、よろしく願いいたします。

○司会（太田紀己代） 今の答えに対して何か案がございましたらどうぞ。

○市民C あの一つは考えていただければありがたいですよ。それで、今お話の中で、コロナ禍のですね、インバウンド事業のですね。その中で皆さんご存知かと思うんですけども、コロナ禍終わった後に訪問してみたい国はですね、確かカナダが1位で、世界でね、2番目が日本ですよ、そしてカナダの人は日本に来たいっていう、そういうインバウンドの予想がありますよね。ですから日本は恵まれていると思うんですよ。その中で、もちろんね、これからコロナ落ち着けばですね、当然、以前のようにまた3000万とかねそれぐらい入ってくると思うんで、それはそれでもう少し時間が必要だと思うんですよ。その中でちょっとこの活性化とは違うんですけども、定住ですね、定住とか移民とかですね、ちょっとそういうことになっちゃうんですけども、今、赤倉とか斑尾とか、結構オーストラリア人が来ていますよね。ああいうかたちをですね、或いは台湾のかたもね。定住ですね、移民ですかね。そういうのをもっと私は、ちょっと個人的に、問題あるかもしれないけど私中国とか韓国はあまり好きじゃないんで、できたらオーストラリアとか、それから台湾もそうですね、それからあと、今姉妹都市がありますよね。妙高市で言えばどこでしたかね。

〔「スロベニア」という者あり〕

○市民C スロベニアとかそういう人達をですね、もっと日本に招くってのはおかしいけども、定住してみたらどうですかってことをですね、もちろん今問題になってますけど、ウクライナとかね。ああいう人たち必死になって頑張っていますよね。ああいう人たちに、日本をですね、知ってもらおうチャンスなので、そういうかたにも積極的にぜひ声掛けをお願いしたいと思います。

○市民B 続けて質問させていただきますが、私、PTコミュニティについてということを最初に質問します。質問というよりも、私の意見です。今お話に出てきました。外国人と定住について、私たち地域でも抱えている問題をお話したいと思います。うちの地域は、赤倉がうちの地域の分家なんですよ、その関係でみんな来る関係があって、外人が今、3組が定住者、あとの2組はいわゆる民泊の感じにいるんですね。そこで今地域で今一番抱えてる問題は、区費を払わないんですね。いわゆるローカルルールだと、言っても駄目で、市の担当者が日に日頃担当者に区長が相談に行ったらば、いわゆるわかりませんみたいなこと言われたんです。それで、今年予算で、いわゆるたとえ英語版でもいいから文章作ったわけですね。わかりやすいように英語を中心に物事を考え、その費用が幾らかかったと思いますかというよりも、私が言いたいのは結構高いんですよ。市の補助があるわけでもなし。みんなで市が地域にみんな丸投げしているんですよ。そこで、今の意見のように住んでもらいたいと言っても、みんな抱えているもんだと思いますよ。だから赤倉も相当区費払ってないところいっぱいあるわけですよ。理解的なこと、最低でも赤倉全体の3割が外人に買われたっていうでしょう。だから、こういうことを見てね、別に、私の意見、今このコミュニティについては、議員団がもっと勉強してもらいたいと思うんですよ。私たちの地域どういう問題を抱えているか。それがなくてももう今年高齢者2家族出ていきます。今度来るのは、あれですよ。地域以外から来ています。だから私もいろんな仕事の中で、区の役員やってる中で外人さんと仲良くして、あなた方が悪いけれど通訳とは言わないけれども、そういうコミュニティーっていうか、コミュニケーションの間に入ってもらえないかって言ったらば、そういう人は、快く返事してくれましたけれど、こういう現実をね、行政を理解しなければ、今の意見なんかみんなどっか飛んじゃますよ。だから私たちは来た人に対しては温かく迎えてあげないと、妙高市も発展しないと思います。だから私、これに対し、今の発言に対しては、返事は要りません。これから私の発言すること約5つあります。一つは、前回妙高高原でやったときの宿題を私出しましたよね。冬の国体で令和の時代に

秋篠宮が来るのと皇太子が来るので、なぜこんなに予算が違うのかということを行いましたよね。ここで今答えられる人いますか。居なかったら冬の国体の前までに答えてください。それとこの意見っていうのは私は一市民から聞きました。なぜこんなに違うのか。だから思うのは昔々赤倉でインカレ、大学選手権を20年以上やりましたよね。あのときに、県からクレームがついたんです。高原町の時代に。全国規模の大会をやり過ぎだと。皇室が来るのに県の最低でも副知事が妙高高原まで来なきゃいけないんですよ。高速道路がなかった時代に。そういうことを、物事を考えた場合に、安易に手は挙げられないと思うけれども、県営のジャンプ台が赤倉にある以上やらざるを得ないわけでしょう。作ってくれ。作ってくれ。だから、新潟県で最低私は3回のうち1回は妙高市になる可能性が高いわけです。今の宿題について答えられる議員さんいらっしゃいますか。いませんね。はい。その次に答えてもらいたいことあと、二つほどあるんです。意見は二つあります。あと私3回ほど続けて出ていますけれども、議員定数のことについて、どのぐらいの進行状況か、来年議員選挙がありますけれども、来年実施できるのかということが一つです。二つ目の返事っていうか、お答え願いたいのは、議会で今度双眼鏡を持ち込み禁止になりましたよね。あれはどうしてなのかということと、私が持ち込みたいというのは、傍聴席から課長の顔がよく見えないんですよ。それと、なんか、〇〇さんの情報だと、いわゆる本会議場で、議員さんがメモを取っているのが見られるのが嫌だという話も聞きました。だからその時に、メモの時に見られてはいけないようなことを、メモする必要があるのかなと思いました。今度は私の議会に対しての全体的な意見なんですけど、去年の3月議会で2日目、3月4日にある議員が議長からの注意を受けて、おまんはねとかいう発言がありました。私はね、あのとき私と〇〇さんだけだったら、妙高市以外の人間いなかったから、傍聴にいなかったからよかったようなものの、あの発言で私は議員の、議会の品位が問われたらもうどうしようもないと思いますよ。だからそういうことに対して、もっとお互いに勉強しましょうよ。ただ私は足引っ張る目的でこういう発言しているわけでもなんでもなし。だからそういうことをお互いに勉強しなきゃいけないもんだと思います。だから、なぜそういうふうになったのかも別問題としても、あとは私、妙高高原地域ですが、平成17年に合併したときに、いわゆる新井市と妙高高原町、妙高村が合併したときに、いわゆる吸収合併なんですよ。だから今までの中の流れを見ていても、やっぱり、新井市のほうから見たら、上から目線に言われてるような感じもしますね。あとだから自分でそういうところっていうのは、今から約10年近く前に、うちの親類が、山辺って言い方悪いけれども、市街に出てきたら、街なかに出てきたら、その隣の親父が、山から来た諸、山から来た諸って言われたっていうんだよ。だからそういうことが根本的に、あるからそういうふうになっちゃうんですよ。だから、また違う親類であったけれども、小学校卒業して、新井中学校に来ると、やっぱりみんな馬鹿にされたんだと。いじめられる一歩手前まで行くんだよという話もありました。だからそういうふうにならなくて、うまくいかないんじゃないのかなという気持ちになりますね。だから、私の意見としてはもっとお互いにそういうことをなしにして、もっと仲良くしましょうよっていう気持ちにならないのかなというふうに思います。だからいわゆる、私の意見は答えられることに関してですよね。議員定数と双眼鏡のことについてお答えください。以上です。

○司会（太田紀己代） ありがとうございます。まずは、今の議員定数について、私ども一生懸命担当しております特別委員会の堀川委員長のほうからお話をさせていただければというふうに思います。よろしく願いいたします。

○妙高市議会議員の定数及び報酬に関する特別委員会委員長（堀川義徳） それでは私が今の議員定数と報酬の特別委員長ということで、今日そういったご質問があるというふうな話を聞いてたんで、参加させていただきました。今ほどどこまで進んでるのかということですが、昨日、ちょうど第6回ですね、もうご承知だと思うんですが、去年の改正ですね、議長の諮問を終えてですね、議員定数と報酬の見直し委員会を作ったわけですが、昨日6回目の特別委員会を開催させていただきました。皆さんもこの間の2月ですね議会だよりの方に市民アンケートという

ことで、議員定数ですとか報酬に関してのご意見をいただいたわけですが、今その中間報告をまとめている最中です。今のところはっきりお答えできるのは、1万2000件ですね、配布アンケート用紙を配布したわけですが、そのうち69のかたから回答寄せられるということで、率にすると0.59%ということで、これが多いか少ないかというのも含めてですね、中間報告という形で、その内容をですね、今精査しているところであります。中間報告特別委員会の中間報告として6月3日の日の議会初日に、その報告をいたします。ですので、報道を通してですね、そういったアンケート調査を含めたですね、中間報告ということが、おそらく明示されますし、その中間報告を受けて、議員全員でですね、少し検討する余地があるというふうな形で、あと年内にですね、答えを出して、3月のおそらく条例改正してですね、来年の7月には、今回の我々の特別委員会の定数等ですね、議長に答申して、その定数で、来年の7月の改選を迎えるというふうな流れになると思いますので、今はっきりしてわかっている時点ではですね、中間報告で、現状今までこういうことを協議して、今後こういうことを協議して、市民のアンケートの結果はこうでしたというところを中間報告で出させていただいて、令和4年の12月末までにはですね、議長の方に、我々の特別委員会の答えを出して、3月で条例改正して7月の改正にはというふうな流れになっておりますので、それは少し細かい話はできないので申し訳ございませんが、今のところ現状はそういう形です。

○司会（太田紀己代） ありがとうございます。双眼鏡については、佐藤議長の方からお願いいたします。

○議長（佐藤栄一） 双眼鏡の件につきまして私の方から話させていただきます。一応、議会の議場の議事整理権は私にあるということでございますので、私の方からお答えさせていただきますが、議員の皆さんは双眼鏡をお持ちになっているのをあまり知りません。後ろにいらっしゃるということで、執行部側の方からもちょっと意見をいただいた中では、落とした場合危ないのではないかという意見もございました。それにつきまして、今度議会運営委員会でお諮りしましたら、オペラグラス等そういったものは持ち込まないほうがいいのではないかという形になりまして、双眼鏡もその中に含めさせたという形にさせていただいたものでございます。それからもう1点先ほど最後に合併のことについて少しお話をされましたので、もうちょっとお喋りさしてもらってもよろしいですかね。あのこの合併は吸収合併というような考え方で、妙高市がスタートしたと私は思っておりません。皆さんと一緒に新井、妙高、妙高高原が一体になっていこうという形で合併したものだとは私は理解しておりますし、そのように進んでくるものだというふうに思っております。私も前回の議長した時には、あまり妙高市、新井の方の議長さんは妙高高原なり、妙高地区に行っていなかったという話聞いたもんですから、できるだけ私は行こうということで、いろんな会議の時には、行かしていただきまして一体感を作りたいという思いで頑張ってきたこともございました。その後の議長さんからも、そういった流れを作っていただいて、議会としてもできるだけ一体性を作りたいということで動いてきたことはご理解いただきたいというふうに思います。あわせてこういった議会改革の中で、議会報告会、意見交換会を各地でやることによって、さらに一体性が深まるのではないかということなのでこれを取り組んでるところでございますので、ご理解いただきたいというふうに思います。

○司会（太田紀己代） はい。お願いいたします。

○市民B 双眼鏡の方でちょっとしつこいかもしれませんけれど、私たち議会の傍聴に行つてね。私と〇〇さんとで議会、委員会まで入れて、出席率95%ぐらいになるわけですね。そのときに、双眼鏡を本会議場でしか使いませんけれども、議会を傍聴するにあたっての目的でやっているんだから、逆に、議会の本会議場でスマホを使っているよりは私は有効的だと思います。だから見られてはいけないものを持ち込んでいるのか。書いているか。あと他に、他の市町村がやっているから横並びという考えなのか。妙高市独自の考えでもいいのではありませんかという、私の考えです。だから私だった見に行つて、今の双眼鏡だと録画までできるような双眼鏡もあるけれども、私は単純に、普通に見えないから、見せてもらうだけの話なんですよね。あくまでも、今の議長の発言は、議会の立場の話

ですよ。だから私が見られていけないものを広げているのかということなんです。その判断はいかがですか。

○司会（太田紀己代） 議長お願いします。

○議長（佐藤栄一） 議員が見られていけないことは、私やってないというふうに思っております。まして、今スマホの持ち込みをしても、電源を切るようになっていう形になってますので、ただこれから議会の方では、タブレットを導入して参ります。タブレットにすることによって、それを今度画面を見るってことで、いろんな情報をその場で見て、そして図を見ていくという形で、審議を深めるために入れてくるというものでございます。そんな中で、双眼鏡の件につきましては、いろいろ検討して参りました。他市の状況もいろいろ調べさせていただきました。結構双眼鏡等そういった金属製のものを持ち込むのを駄目にしてるっていうか、申し込まないように規則で決めてるところ、結構ございましたので、それならそれに合わせて一緒にやったらどうかなというふうに進めたところでございます。

○司会（太田紀己代） はい。お願いいたします。

○市民B だから、横並びみたいな感じだから、妙高市独自の考えじゃない。私たちは言ってもいいのではないかということなんです。今もうどうせさっきのはもう話変わりますけれども、地域コミュニティのことで、私、一応、役員の関係で、市に行政のところに関い合わせに行ったんですね。そしたら担当の人間が、教えてくれって言ったら私わかりません。だからそういう対応をする市の職員がいるわけです。だからそういうことについて、私たち今度、誰に相談すればいいんですかって言うことになって、私は自分なりに、知ってる範囲で合併する前の高原町の職員のところに聞きに行って答えが出ました。あと、去年10月からの市報に市長へのたよりってのあって、私そこへ書いて、行って、答えが約20日近くかかったんですね。18日ぐらいかかっているのかな。総務課長聞いたんです。なぜこうなったかと。実はこうこうこういう言うわけなんです。だったら、その答える範囲でね。ここまで進んでいるけど、これから先は答えられない。という答えが出てこないんです。だから総務課長に言ったのは、一市民、一有権者として意見述べて答えが返ってこないならば、だめならば、議員を連れていくしかないのかと言ったんです。議員も何欲しいですかって聞いたらいやそんなことはないんだと。だからそういうことに行政、議会であんま関係ないといえば関係ないかもしれないけれど、市全体とかそういう考えなんですね。だからさっき言ったように、みんな地区の悩んでいることに對し、みんな、まとまる答えが返ってこないんですけど、だから、文章を作るのに何万もかかるわけですよ。だからそういうことをみんな地域で丸投げされているから相談しに行ってもまともな答えが返ってこないから地域で役員みんな苦労しながらやってるわけですよ。だからそういうことを、肝に銘じてもらいたいというか、意見を聞いてもらいたいと思います。だから、そういう話を、こういうところでなければね。聞けないと思います。実態を知らないと思います。違う世界だと思うんで。以上です。

○司会（太田紀己代） ありがとうございます。いろいろとその外国人の関係、それから移住定住といったところで、私どもの方に汲んでいただいているというふうに考えます。まずは、外国人のことについて、産業経済委員長お願いいたします。

○産業経済委員長（阿部幸夫） 移住定住について、特に私ども妙高市は、これまでですね国内も含めては、積極的にやってきているところでありますし、外国の皆さんにおいてもですね、日本の今の状況としては、多分ですね、ホテル、それから空き家、そういった関係でのですね、多分、購入等々含めて、動きながらですね、移住定住に繋がっているような流れに私としてはいろんな話を聞く中で、そんな受けとめ方をしております。考え方としてはやっぱり積極的には、国際交流の時代になってきているわけですから、そういった形の中で、移住定住をしていただければというふうに思います。ただ大きな壁がありまして、言葉の問題や生活の日常的ないろいろな部分があります。これは先ほど言われたように、地域コミュニティの中でやっぱり一つ一つ解決していくしかないと思いますの

で、そのことについては、私どもも地域コミュニティってということについて、肝に銘じながら私どもも地域の中に入ってですね、声を聞くというようなことを、再度ですね肝に銘じておきたいというふうに思います。国際交流の流れにありますので、移住定住を積極的に展開していきたい。来ていただける国際のかたがあれば、今はロッセの方にも韓国から人も来ていただいておりますし、いずれにしろ、そういった受け止め方でおりますので、よろしくご理解をいただければと思います。以上です。あのインバウンドの関係は本当に来ていただけるように、とにかくスキー、それからグリーンシーズン等々含めてですね、四季を通じて、先ほどらいからお話をしている通りになりますので、そのようにご理解いただければと思います。

○司会（太田紀己代） ありがとうございます。移住定住について総務委員の岩崎委員長お願いいたします。

○総務委員長（岩崎芳昭） 妙高市で今対応している移住定住というのは、主に首都圏からの移住定住という形が中心となっております。そんな中で、この2年間はコロナの関係で首都圏等のいわゆるIターンUターンですね、イベント等にも、行政職員も参加をしていただく中で、Zoomとか、いろんな形の中で、とりあえず対応してるんですが、今までよりも何て言うんすかね。希望者は多いのだけれどもなかなか実績が増えてこないのが現状です。そこで、今ほどおっしゃったような形の、外国人も含めた形ですね、やっぱり視点を変えた取り組みっていうのもこれから必要かなと、国際化っていう部分考えるとですね当然そういう分野にも手を伸ばしながら、少しでも、地域の活性化のために役立つ、またその集落地域が持続可能な取り組みに、その新しい考え方を入れていくっていう、いわゆる人材の活用ということも、非常にこれから、今必要な対応だと思いますので、そこら辺はまた、地域共生課の方にもですね、そういう話を持っていきたいと思います。

○司会（太田紀己代） ありがとうございます。皆様方から何かございますか。

○市民B 議会としてはそれでいいですよ。それ以上のことは私は望めないと思う。だから市として、地域のさっきお話したように、区費払わないでごみだけを出すような感じなんです。それ実際的にあった話ですけど、区長が警察官立会いの下でこういう話したんですよ。そしたら相手が警察はいいけれどお前なんか帰れと、お前なんか関係ないよと、だから警察のアドバイスとしては、そういう対応のときは絶対に一人でやるなど、複数でやってくれと、だから組以外の方がごみ出すときには、一対一でやるなどって、そこらですね。だから、市の指導も一対一でやるなどということも、指導ありましたし、何かあったらすぐ警察に電話してくれということなんです。だからこれが現実なんです。皆さん外人さん来ていいなと思ったら大間違い。だから、説明して納得してくれる人ならいいけれども、納得してくれないんですよ、いわゆるローカルルール。下手したら日本人だって理解しないですから。そこを外人さんに理解しろと言ったってね、夢物語ですよ。だからそういうことを皆さんがどのように理解して、これからどういう方向に進んでいくのかということですよ。以上です。

○司会（太田紀己代） なかなかいろんな意味で、外国のかたといいところの対応、本当にご苦労していただいております。どうもありがとうございます。またこれに関して、はい。

○市民C 妙高高原の赤倉なんですかね。

○市民B いいえ、赤倉が分家なんです。

○市民C すいません。今このかた意見言われたん中ですね、外国人に対して、いろんな組のごみの出し方とか決まり事ですか、そういうのを市役所に行ってそういう文書を作って欲しいということと言われたわけですか。

○市民B その話は、ごみの出し方についてのルール、妙高市は外国語でいくつあると思います。

○市民C わかりません。

○市民B 5つあるんです。そのうち、英語版だけは私は三部もらって配りました。一応外人さんに聞いたら欲しいかって言ったら欲しいと言うから、私、3部のうち2部しか配られないのかな。だからそういうことがあるから、議

会でも多分5つですよ。訳してあるのはね。だから、そういうことを聞いたんで、だから配っているような状態でも、駄目なんですよ。

○市民C 外人が言うこと聞いてくれないってことでしょ。

○市民B そうです。さらにそういうことも私たちが実際的に話ししないと、皆さん理解しないと思いますよ、

○市民C 具体的にオーストラリア人とかそういう人ですか。

○市民B ただ言えることは欧米人としか答えられないです。

○市民C それってあれですよ。非常に問題は問題ですね。私個人的には、一緒じゃないけど、外人がいっぱい入ってくればいいなと思ってましたけども、現実こうやって、地元のかたがこういう苦言があると、やっぱり改修しないとやっぱり乗り越えないとやっぱり、乗り越えて増えていくのが理想ですけど、これがなかなか現場でもね、やっぱりやりとりあるから、それはやっぱり市もですね、市議員さんも骨を折っていただいて、今後スムーズにいくように、こちらの意見のかたも、ごもつともだと私は思うんですよ。それからさっきなんか、何万円もかかったとか言っていましたよね、お金、それも何かおかしいなっていう、聞いてて思ったんですけど。それだったら市か何か対応してくれないもんですかね、誰でも英語できるんだったらもちろん簡単にできるだろうけど、そうそう簡単にはいきませんもんね。

○市民B だから、区長が市の担当者のところ行って、これなんとかできないかと言ったら、予算付け、補助金出ないかと言ったら、出ませんとはっきり言われたんです。

○司会（太田紀己代） 今いろいろとご意見をいただいておりますが、とりあえずそのごみの問題、それから今聞いたので、不思議に思っているということで、そこでお互いお話をなさっていただいたかと思いますが、私たちごみの関係、それから外国人への対応と、そして市としてきちっと捉えていけるように、議会として、議員として、きちっとそれを、市の方に提言していくといった形でなろうかというふうに思っておりますが、その辺で大丈夫でございましょうか。今はですね街なかの活性化、或いはその地域コミュニティといったところで、いろんな形でご意見をいただいております。少し時間も迫ってきておりますが、その他、まだこういったことを聞きたいといったところございましたら、挙手の上でお願いしたいと思います。

○市民D では最後に、短めに言います。ここに妙高高原でやった写真あります。今日の写真をちゃんと載せてください。変な話、隠蔽しないでください。そして、今日ここに5人いますよね。皆さん、失礼ですけど私70、多分皆さん65以上でございます。高齢者です。高齢者がいろいろ言ったってもうこの先ないんですよ。だから、宮澤さんもそうだけど、高齢者じゃなくて、若い人がいかに参加するか。それをもう1回考えてください。それだけです。また一応まだ希望を持っていますからまた次回の意見交換会にも参加する予定です。よろしくお祈りします。

○司会（太田紀己代） ありがとうございます。今のことについて広報広聴委員長の方から説明いたします。

○広報広聴委員長（宮澤一照） ありがとうございます。マイク要らないです。聞こえますか。隠蔽しないで、必ずこの席の写真に載つけて、ちゃんと出させていただきます。そのときにはきちっと、こういう状況だったっていうことは、ちゃんとこれ議会報告ですから、それで議会報っていうのはそういうことにあるんだと思いますから、私たちがそれをやっていきたいと思えますし、他にですね今ご質問いただいた点等がいろいろあったと思えますけれどもその辺も、広報広聴委員会でもどのようにやっていくかっていうことをまた議会でもどうやってまとめていくかっていうことを考えていきたいと思えます。例えば条例を作るとか、例えば外国人の経営における条例っていうのは、我々議員っていうのは、やはり条例を作ること、やっぱりそのルールをしっかりと作るってことも、我々の課せられたところでもあると思うし、その辺も含めた議論をしっかりとやって、納得のいくような形の回答をしていくように努力していきたいと思えますし、これからだつて、外国人の定住、非常に私多くなってくると思えますし、その

辺も含めてやはりその辺のルールをしっかりと、見極めて妙高ならではのものを作っていくっていうことを、やっぱりこれから議論してやっていくべきだというふうに私も考えておりますから、よろしくお願いたします。どういうふうにやるかっていうことに関しては、今のこういう意見交換会の意見が非常に重要になってくると思いますから、それはまた我々でまとめさせていただいて、今は質問されたから、我々も今、それに対して、きちっとしたことを回答できないんですけども、せっかく今日来たことをしっかりと、私たちが議論してやっていく、やってまた報告させていただきたいと思います。よろしくお願いたします。

○司会（太田紀己代） ありがとうございます。本当に貴重なご意見をいただいたと思います。はい。お願いたします。

○市民E すいませんテレビ番組で、何でも言って委員会っていう番組がありますが、妙高市でも、年に1回、そういったことをやってもらえたらと私そんなふうに思います。本当に何でも言って委員会。市長さんの前で何でも言って委員会。そういうことを、そういう場を作ってほしいと、そんなふうに思います。それから、戦後77年、様々な問題が生じています。廃校が年500校、市町村の消滅、議員の皆様は国政の一翼を担っております。それはなぜ会社の求心活動ではありませんが、追求して欲しいです。私が思うには、今はいろいろな様々な問題の起因を追求して欲しい。その起因は私は、戦後の誤った日本国教育だと思います。第2に戦後の誤った日本国憲法だと思います。

○司会（太田紀己代） どうもありがとうございます。まずは何でも言って委員会というふうな形でお話でしたが、議長。

○議長（佐藤栄一） 貴重なご意見ありがとうございます。何でも言って委員会というお話をいただきました。実は私どもの方でも、これを似たような形でないかなということ、いろんな全国の資料を見てきましたらございました。議場でトークという形で市民の皆さん方が、5分間、議場へ来て、好きなご意見を言っていただくという場を設ける機会がございました。少し参考にしていきたいなというふうには思っています。ところがこの時の議長さんはアメリカ人でした。アメリカではそういったスタンスのものがあるんだというお話の中で、取り組まれたというふうに聞いて、今でも継続されているようでございます。そんなものも、これから私どもの議会の中に取り入れられないかなということ、検討していこうかなというふうには私は思っています。妙高市議会としまして、今議場をいろんな形で活性化していこうということで、取り組みの芽を今、出しているところでございますので、今年度中にはいろんな形の議事を活用したものを生かせばというふうに思っていますので、期待していただければと思っています。トークの方も私の議長の任期もあと1年ちょっとでございますが、いろんな形の中で、議長の活用の一つとして、今の提案も、貴重な意見だというふうに考えましたので、考えていきたいと思います。それから今の日本の国の教育憲法の話になりますと、ちょっと私の方から、申し上げるのは難しいところもありますので、今後の中で検討させていただければと思います。よろしくお願いたします。

○司会（太田紀己代） ありがとうございます。もう時間も大分差し迫りました。はい。どうぞ。

○市民C すいません。ちょっと数点ですね、ちょっと要望でお願いしたいんですけども、一つは今年の2月にですね。流雪溝の雪詰まりがありましたよね。朝日町ですね、消防団ですね、これ6、70名近く、遅くまで流雪溝の雪詰まりを対応されたんですけど、この原因の要因はですね、多分、流雪溝の水利口が少なかったんじゃないのかなと、それも一つの要因だと私は思っている。私は〇〇町なんですけど、上江用水のちょっと個別の話で申し訳ないんですけども、私も田んぼやっているんですけど、5月5日に水取りがあったんですけども、田んぼの水が少なかったですね、それはまあ3年前の2019年の10月の台風ですね上江用水が流されて、そして今回の激甚で綺麗に直してもらったんですけども、今上江用水の取り入れ口の水門よりも、川底が低いんですよ。それで、田んぼが今年水取

り大変だったんですわ。これは私ら農家の場合はこれで、9月で終わりなんですけど、今度10月には今度流雪溝ですよね。流雪溝は多分今年も水が足りないと思います。そうすると多分、上町、中町、下町、朝日町の水が足りないと思いますんで、今のうちから一つ段取りしてですね、何とか水を取れるような恰好で進めていただきたいと思います。それから、今テレビでよくやってますけども、北海道でね、どこかを中国人が水資源を獲得してるっていう話を、外国資本によって獲得してますけど、この妙高市で具体的に例えば、笹ヶ峰とか妙高高原町もそうですけど、関山もそうですけど、そういう心配がないのか、老婆心ながらちょっと聞きたいなと思ひまして、それに関連して、こんなこと言って申し訳ないんだけど、今ホテルロッテさんがね、韓国人の資本ですよ。例えば、ホテルロッテさんが経営が厳しくなってますね、私もうやっつけられないといひって、簡単に例えば中国人に売ったりとか、そういうことってのは、事前にわかるのかどうか、わかるならもちろん反対していただきたいんですけども。もう一つ、さっき議会の活性化の話をされてましたけど、私、議会の活性化ですね、議長さんはですね、人工知能か何かにしたら面白いんじゃないか。これやるうとですね多分。全国からね、こういう例が面白いことで、取材に来ると思うんです。人が来てくれるってことはまた面白いことじゃないかなと。活性化にも繋がるんじゃないかと。以上ですね、伝えたい要望です。

○司会（太田紀己代） ありがとうございます。流雪溝の問題、ロッテの関わりといったところで産業経済委員長いかがでございますでしょうか。

○産業経済委員長（阿部幸夫） まず流雪溝の問題、私ども本日お聞きしましたので、実態をきちっと把握して、もし問題があれば、早急にですね、対応していかなきやいけないというふうに思ひますので、市民生活をまず守ることが重要だというふうに思ひております。2点目のホテルロッテの問題ですが、これは、まだそこは独立してですね、海外にも本社を持ってですね、いろいろやっておられるわけでありますから、私どもとしては、そこに手を突っ込んでどうだこうだというわけにはいきませんので、状況を確認しながらですね情報交換をしながら、まずそういうことにならないように、ここに脈々と基盤を築いていただくようにですね、していければというふうに思ひておりますので、ひとつご理解をいただきたいというふうに思ひます。よろしくお願ひします。

○司会（太田紀己代） 人工知能というご意見いただきました。佐藤議長いかがでございますでしょうか。

○議長（佐藤栄一） 思ひもよらぬ、人工知能という形をいただきました。今のAIの技術がすごく進んでますので、今テレビのニュース番組を完全に合成音で出せるようになってるという時代ですので、いろんなことができると思うんですが、私はやっぱり人間味のある議会でやっていきたいなという思ひがございます。やはりそれはやっぱり人と人の繋がりが一番できていくものだというふうに思ひてます。一番最初の話に戻りますけど、コミュニティの根源はやっぱり人と人との繋がりが、そっから始まっていくのではないかなと思ひてますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。

4)、5) 閉会あいさつ、閉会

○司会（太田紀己代） ありがとうございます。本当に皆様から貴重な意見をたくさんいただきました。私どももしっかりとこれからも勉強して参りたいというふうに考へております。それと予定していたお時間でございます。まだまだこういった会をしっかりと私ども勉強しながら続けていきたいと思ひますし、皆様方からも、またさらに他の方々をお誘ひいただきながら、ご出席いただければというふうに思ひます。最後に、この会の閉会にあたりまして、企画の代表である宮澤広報広聴委員長よりご挨拶させていただきます。

○広報広聴委員長（宮澤一照） 今日はどうもありがとうございます。本当に、確かに少なかつたし、言ってる通りのことだと思ひます。でもこれを一つの土台としてベースとして、我々が本当にこの妙高市を本当になんていうん

ですか、注目してもらいたい。合併の時っていうのは人がすごたくさん集まっているんな議論したと思います。また、一番最初に、ここで新井地区でやった時もやっぱまず興味があつて、わかんないけど人がたくさん来てくれました。我々は集めたわけじゃありません。報告っていうか広告とか、今と全く同じやり方でやったんだけど、市役所には50名から集まった経緯があります。でも今こういう形で、皆さん方、本当にいつからでもそうですけれども本当3名しか来て来てません。それは一概に私たちの責任でもあると思います。やっぱり興味を持ってもらえなかった。興味を持ってもらえていないっていうのがここに出てきてると思います。先ほどらい言ったように、正直、この実態を、報告して、議会報に載つけて、そして、これからもう1回この議会っていうのを妙高市の議会というのは、市民の負託を得て、なんていうかしっかり話し合っやっていきたいというふうを考えております。またいろんな意見があつたこと、これに対してもしっかり報告していきたい。いつもいつも報告してないようなところもあつて、怒られますから、私たちはちゃんと褒められるように、次の会はやっていけるように頑張っていきたいと思ひますんで、よろしくお願ひいたします。今日は本当に、遠いところからまた、この忙しいときにです、来ていただきましてありがとうございます。これからも妙高市議会よろしくお願ひいたします。本日はありがとうございます。

○司会(太田紀己代) どうもありがとうございます。皆様方遅くなりましたが、ご足労でもアンケートにご記入の上、十分気を付けてお帰りにいただければと思ひます。どうも、ありがとうございます。

閉会 午後8時30分